

第6期

南島原市

高齢者

福祉計画

概要版



令和3年3月

南島原市

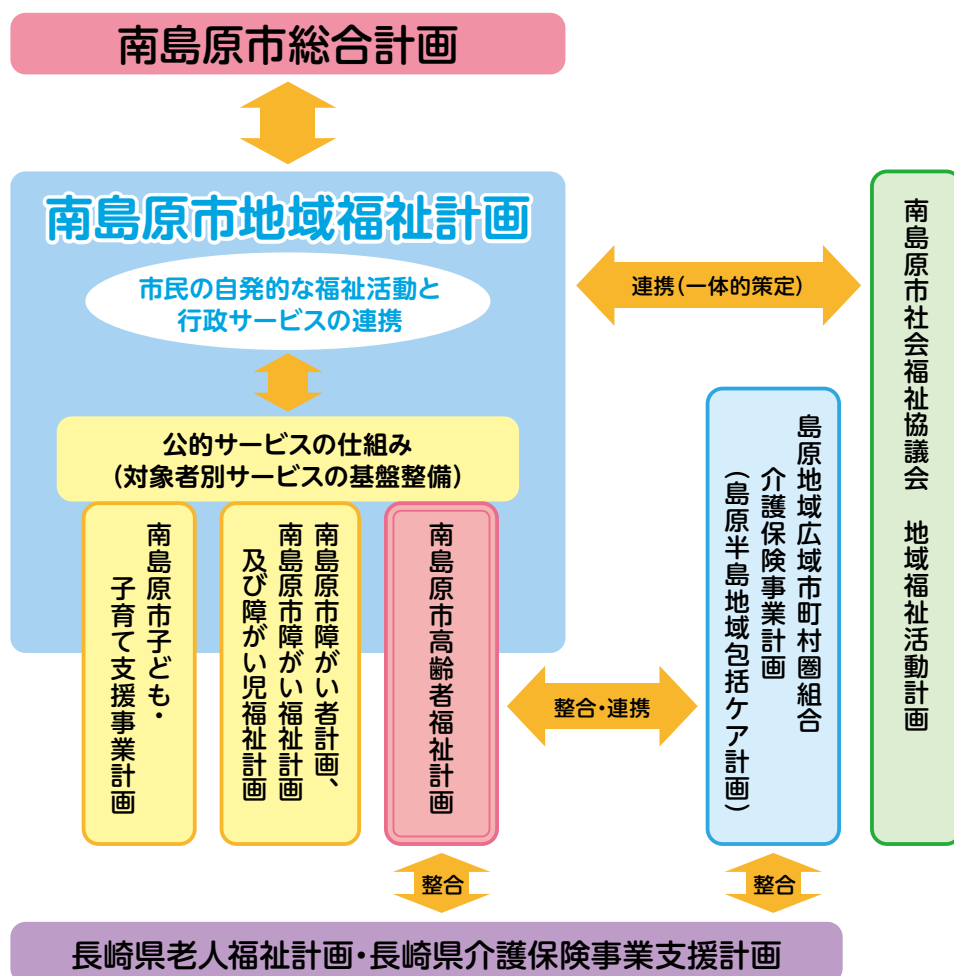
計画の概要

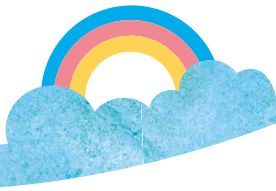
1 計画策定の背景と趣旨

全国的に少子高齢化が進行する中、本市においても高齢者人口及び高齢化率はともに伸び続け、令和2年10月1日現在の高齢者人口は17,590人（高齢化率39.4%）となっており、65歳以上の介護保険の要支援・要介護認定者数は、令和2年9月末現在3,969人（認定率22.6%）となっています。また、いわゆる団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22（2040）年までの本市の状況を見通すと、高齢者数は減少に転じるものの85歳以上の割合が急速に増加することが見込まれ、医療・介護ニーズが増大する一方でその担い手の不足が懸念されます。

こうした状況を見据えたうえで、高齢者の健康寿命を延伸するための様々な取り組みや、後期高齢者の増加を踏まえた多様な生活支援体制の整備、医療と介護の連携体制強化など、市民、関係機関、行政が連携・協働して取り組み、本人が望む生活を支える地域社会の実現を目指す必要があります。

2 計画の位置づけ





計画の基本的な考え方

1 計画の基本理念

高齢者がいつまでも安心して 住み慣れた地域で暮らせるまちづくり

住み慣れた地域で健康に生きがいと安心を持って暮らすことは、高齢者のみならず多くの市民の願いです。しかしながら、長い人生の中には、病気や怪我などで医療と介護の両方を必要とする状態となり、これまでの生活状況が一変してしまうこともあります。

本計画では、「高齢者がいつまでも安心して住み慣れた地域で暮らせるまちづくり」を基本理念とし、高齢者一人ひとりの人生（自立の状態から看取りの場面に至るまで）に寄り添いながら推進することで「地域包括ケアシステムの深化」を図ります。

2 目指す将来像

「本人が望む生き方」を 家族や地域、専門職が支える地域社会が広がる

基本理念を実現するために、市民、関係機関、行政が「目指す将来像」を共有したうえで、高齢者の健康寿命を延伸するための様々な取り組みや、後期高齢者の増加を踏まえた多様な生活支援体制の整備、医療と介護の連携体制強化など、本人が望む生活を支える地域社会の構築に向けて、連携・協働して取り組みます。

また、高齢者を中心とするこれらの取り組みを推進するとともに、育児、介護、障害、貧困、さらには育児と介護が同時に直面する家庭など、世帯全体の複合化・複雑化した課題を包括的に受け止める重層的支援体制整備を目指す「地域共生社会」にもつながる取り組みを進めます。

3 計画の期間と進行管理

計画の期間

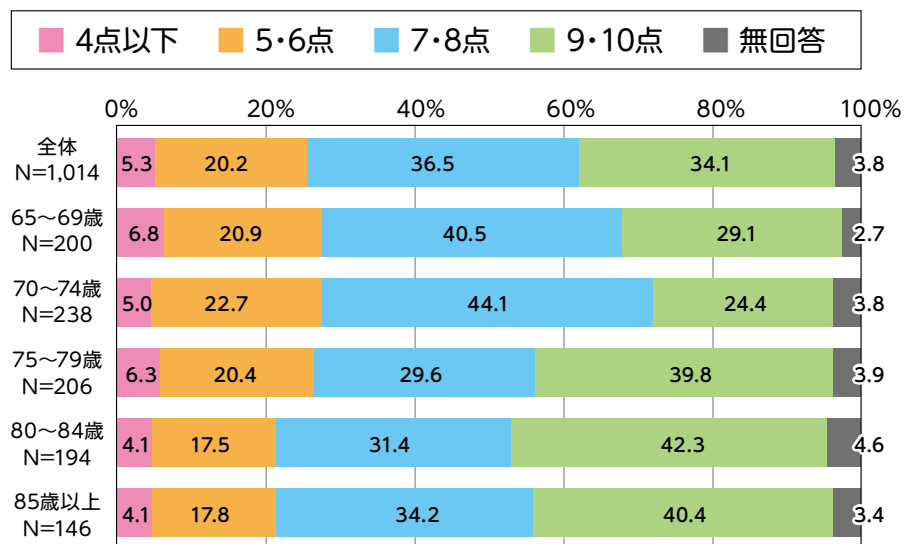
西暦(年度) 【年号(年度)】	2016 【H28】	2017 【H29】	2018 【H30】	2019 【H31】	2020 【R2】	2021 【R3】	2022 【R4】	2023 【R5】	2024 【R6】	2025 【R7】	2026 【R8】
総合計画(基本計画)	1期(後期)		2期(前期)					2期(後期)			
地域福祉計画	2期					3期					4期
高齢者福祉計画	4期	5期				6期(本計画)			7期		

進行管理

令和5年度の目標値達成に向け、本計画を推進するとともに、実施状況の把握と進行管理を行います。本計画の目標値は、「高齢者の幸福度」や「職務従事者満足度」といった指標であることから、その成果については令和5年度にアンケート調査等を実施して評価・分析を行います。

現在どの程度幸せか

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として



評価指標と数値目標

評価指標	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)
高齢者の幸福度(平均点)	7.59点	8点
自治会活動やサークル活動、介護予防自主グループ活動等に参加している高齢者の割合	32.3%	40%

高齢者を取り巻く南島原市の現状

1 人口構造と高齢化の状況

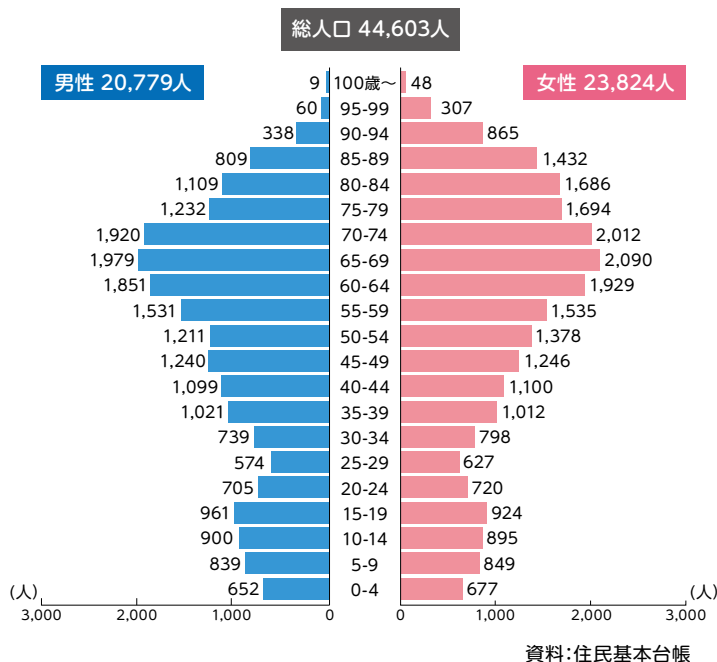
■人口ピラミッド

本市の人口は、令和2年10月1日現在で、男性20,779人、女性23,824人、合計44,603人となっています。

年齢階層別にみると、60代後半といわゆる団塊の世代が含まれる70代前半が多く、そこから20代後半までは年齢階層が低くなるにつれて人口も少なくなっています。

今後10年間で、70代前半及び60代後半の階層が順次後期高齢期に達することから、特に後期高齢者(75歳以上)の増加が見込まれます。

人口ピラミッド(令和2年10月1日現在)

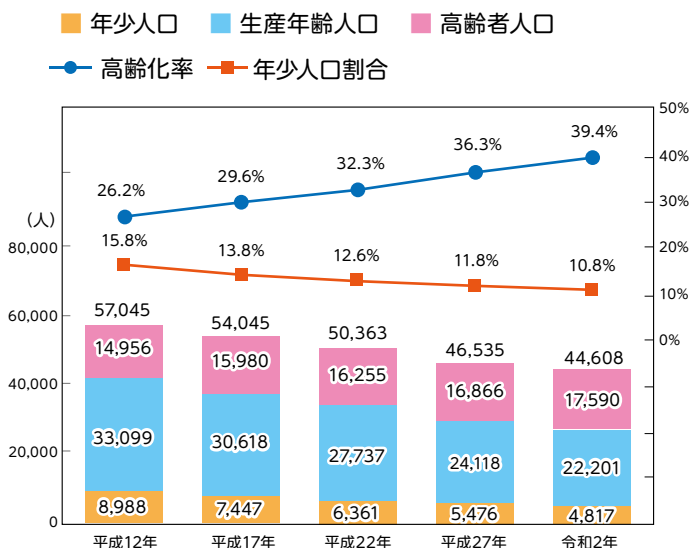


■年齢3区分人口と高齢化率の推移

本市の総人口は減少の一途をたどっていますが、年齢3区分別にみると、65歳以上の高齢者人口が増加を続ける一方、15~64歳の生産年齢人口及び15歳未満の年少人口は減少を続けています。

これに伴い高齢化率は上昇の一途をたどっており、令和2年の高齢化率は39.4%、市民の2.5人に1人が高齢者という状況になっています。

年齢3区分人口の推移



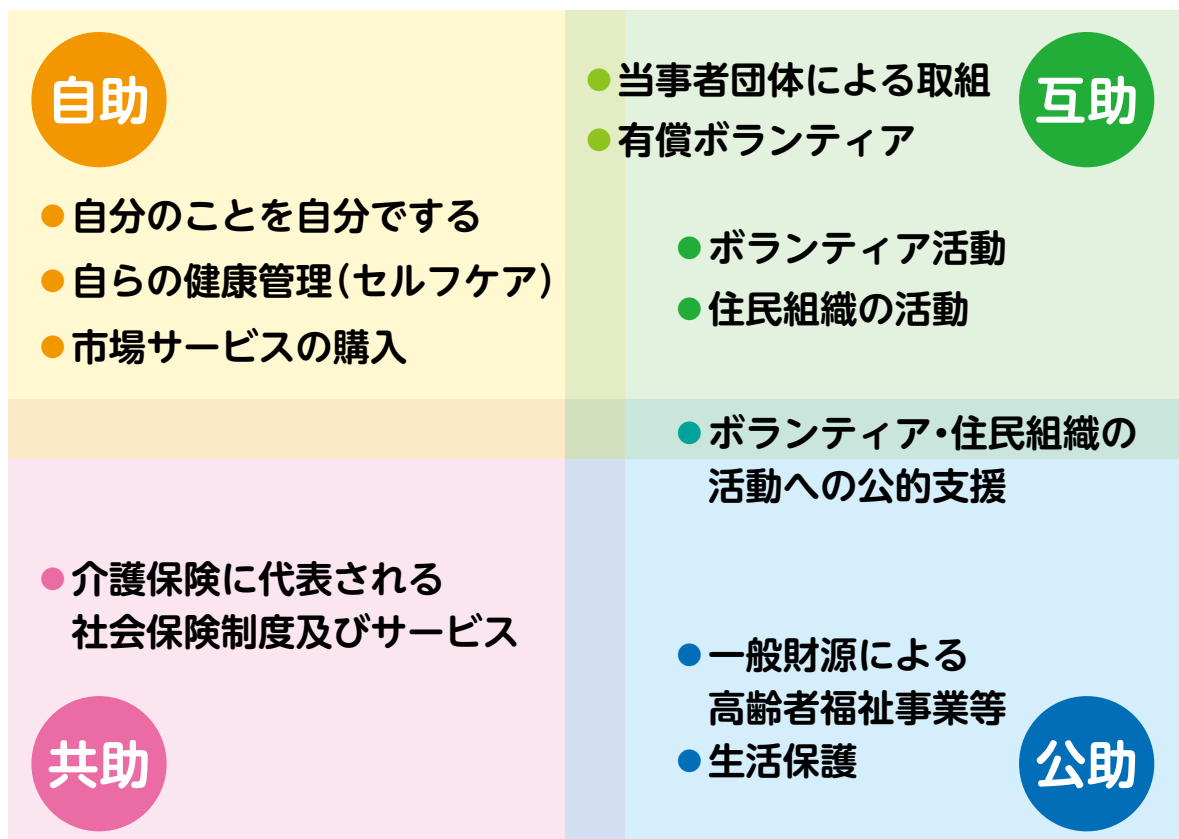
2 施策の3本の柱

上記基本理念及び目指す将来像を実現するため、本計画期間中は、次の3つを施策の柱として、自助、互助、共助、公助のバランスのとれたまちづくりを推進します。

施策の柱ごとの現状と課題及び今後の取り組みを明らかにするとともに、その進捗を図る指標と数値目標を設定します。

- ① 生きがい・健康づくり
- ② 介護予防・生活支援
- ③ 在宅医療・介護連携の推進

■「自助」「互助」「共助」「公助」と地域包括ケアシステム



資料：地域包括ケアシステム研究会

高齢者保健福祉施策の展開

自立している状態

① 生きがい・健康づくり

① 社会活動への参加促進

② 健康づくりの推進

② 介護予防・生活支援

① サルコペニア・フレイル予防の推進

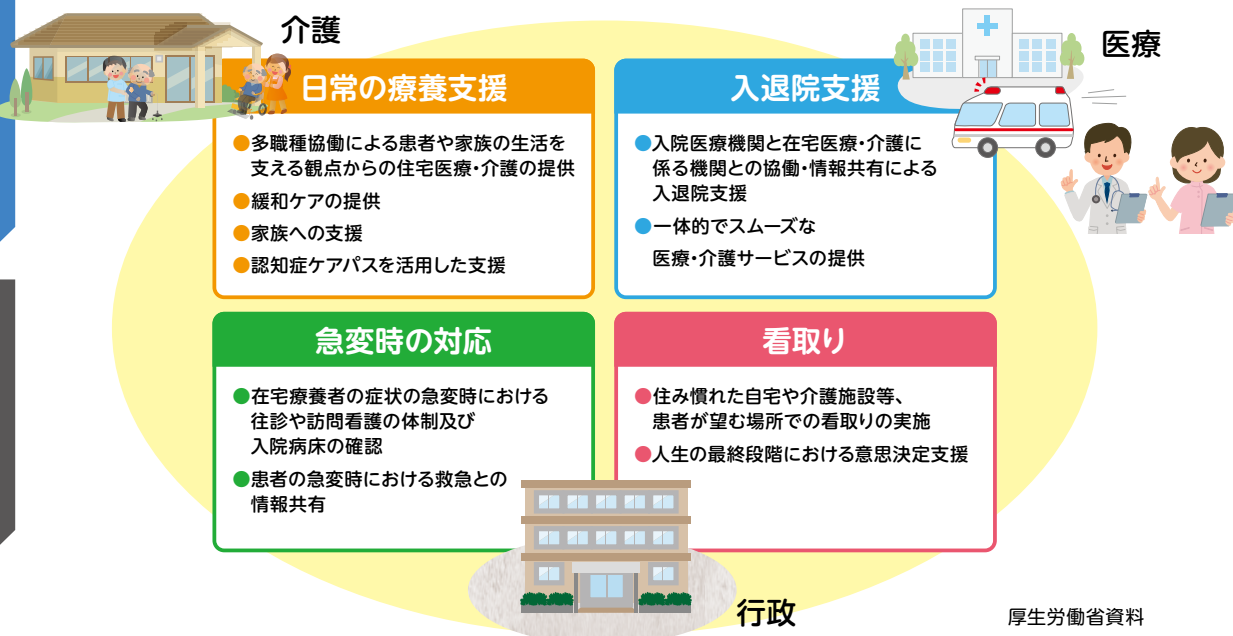
② 認知症施策の推進

③ 生活支援体制整備の推進

支援が必要な状態

③ 在宅医療・介護連携の推進

在宅医療と介護連携イメージ(在宅医療の4場面別にみた連携の推進)



終末期

第6期南島原市高齢者福祉計画 **概要版**

令和3年3月

このパンフレットに関するお問い合わせは

南島原市福祉保健部福祉課総務高齢班

〒859-2412 南島原市南有馬町乙1023番地

☎ 0957-73-6651 FAX 0957-85-3142

E-mail: soumukourei@city.minamishimabara.lg.jp